

# 教育会だより

更埴教育会ホームページアドレス <http://www.ckm.janis.or.jp/~koushokukyoubuiku/>

平成30年11月号  
教育会あり方検討委員会発行



## 更埴教育研究集会 開催

9月1日（土）に、「第60回更埴教育研究集会」が更埴西中学校を会場に開催されました。

午前のみでの半日開催も9年目を迎え、分科会・講演会ともに充実した内容で、有意義な研究集会となりました。

今年度は19の分科会が開かれました。第8分科会「小中の英語教育（外国語活動・外国語科）」は30名以上の参加があり、半数以上が保護者でした。英語教育に対する関心の高さが伺われました。各分科会では実践を基にしたレポート発表や討議、演習等、工夫を凝らした内容で運営され、充実した研修の場となりました。

参加した保護者の方からは以下のような声が聞かれました。

- 子どもが小1のため、学年が上がる毎に増えていく家庭学習について様々な意見を聞くことができてよかった。これからの学校生活が長いので、生かせる時間も長い。このタイミングで参加して本当によかった。（学力向上に向けての取り組み）
- 先生方が自分の足で道具を探して授業の準備をされていることを知り、PTAとしてありがたい気持ちでいっぱいです。参加して良かったです。ありがとうございました。（理科好きの子どもを育てる学習）
- 親の立場として、学校でどう筋道を立てて子どもたちに考えさせ、主体的に行動させているか、知ることができて良かったです。どんどん保護者に伝えてほしい！（子どもの未来を考えるキャリア教育）
- 昨年に引き続き、この分科会に参加しました。前半のレポート発表では、先生方の工夫にとっても興味がありました。後半の実技はとても楽しく、子どもたちも楽しめると思いました。（体力向上に向けての取り組み）
- 今回初めて教研集会に参加しましたが、とても良い経験になりました。ぜひ、多くのPTAの方が参加できる場になっていけばと思います。（小中の英語教育）

後半の講演会では、認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人の理事長である長岡秀貴先生をお迎えして、「だれも知らない若者たちの話～日本は本当に生きづらくなったのか～」という演題で講演していただきました。高校時代に突然半身麻痺で医師から「社会復帰不可能」と宣告をされながらも、担任の先生の「長岡戻って来いよ。おまえ、必要だよ。」の言葉を受けて必死のリハビリを経た復活劇。その恩師の死を乗り越えて、今苦しんでいる子どもたちのためにできることをやる日々を語っていただきました。「人の幸せになる瞬間に触れていく」ことを念頭に置かれている長岡先生の生き方に感銘を受けました。また、「一人の百歩ではなく、百人の一步」の言葉は、今の日本で必要なことと長岡先生は言います。我々も長岡先生もめざしているところは同じであり、目の前の子どもたちの健やかな成長です。そのために我々教職員は日々努力していかなければならない・・・そんなことを考えさせられる85分間でした。

来年度も今年度同様、三者共催で幅広く参加者を募集し、充実した分科会と講演会になることを願っています。運営していただいた先生方、本当にありがとうございました。



## 各分科会の様子から



第10分科会  
(子どもの体と健康教育)



第15分科会  
(読書好きな子どもを育てる活動)



第17分科会  
(情報化社会に生きる子どもを育てる)



第18分科会  
(歌声づくり、音楽集会・音楽会の持ち方)



長岡秀貴先生の講演



# 教育研究会の紹介 その3

## 【更埴社会科教育研究会】

更埴社会科教育研究会では、5月24日に総会を開催しました。総会では、事業計画の承認後、久保田英雄先生より「つながり ～冠着橋を通して～」という演題でご講演をいただき研修の機会とさせていただきました。

本研究会では、『子どもたちも教師も「おもしろさ」を感じられる授業の創造～社会と自分のつながりを実感する社会科～』と新しい研究テーマに向かって出発をしました。小学校（治田小学校）・中学校（坂城中学校）で実証授業と授業研究会を行いました。それをレポートにまとめて信州社会科教育研究会飯水大会に参加しました。授業研究会や本大会の分科会でのご指導を受け、次年度に活かす取り組みを行っています。また、本研究会では、学校間を越えた教師のつながりや専門性を高める研究を行っています。



## 【更埴理科教育研究会】

今年度の更埴教育研究会は、会長に若林一成先生（八幡小学校長）を選出し、37名の会員で発足しました。

7月には、地域の教材を探し求め佐野川上流で水質の調査をしたり、地質調査をしたりしました。

8/6、7の夏期研修会では、我が千曲市の生活の源である千曲川の源流へ行ってきました。改めて、水のあるところに人々は住み、集落ができ生活していること

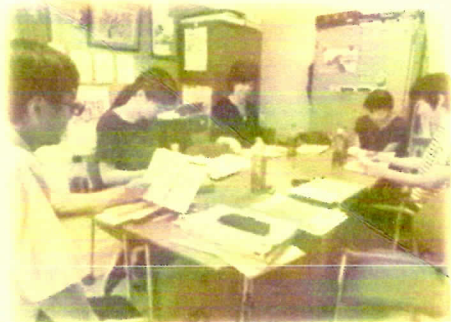


佐野川上流の風景

を実感するとともに、だんだん細くなっていく川を覗いていると自然の神秘さや偉大さを知ることができました。また、研究部会では、治田小学校・戸倉上山田中学校での公開授業を通して素材の良さを生かした教材を用いて今後の授業改善のヒントになる授業を提供していただきました。会員同士が気軽に情報交換し、教材を共有し合える活気あふれる理科教育研究会を目指しています。

## 【更埴道徳研究会】

本年度は会員20名で発足しました。8月2日（木）には上山田小学校において夏期研修会を行いました。研修会では、今年度から小学校で道徳が教科化されたことを受け、実際にどのように評価をおこなったのかについて報告をしていただきました。中学校では来年度から教科化されるため大変参考になりました。また「考え、議論する道徳」、明日からの生活にも生かされるような道徳の授業を目指すための授業づくりについて意見交換を行いました。ざっくばらんでありながら、実践を積み上げていくことの大切さを実感した研修会となりました。12月の研修では各自が取り組んだ実践や評価について意見交換を行う予定です。



## 【更埴哲学研究会】

更埴哲学会は、年間4回ほど集まって活動をしています。毎回、道元禅師の『正法眼蔵随聞記』を読み合わせて、それを元に日頃の教育実践から感じたり考えたりしたことを自由に語り合っています。教育技術や方法論というより、教師としての生き方を改めて見直す機会になり、明日からの実践への意欲が漲ってくる貴重な会です。お気軽にご参加ください。





## 【更埴陶芸教材研究会】

今年では会員16名でスタートしました。昨年までは夏休みの2日間の開催でしたが、今年では会場や日程などの都合により夏休み1日だけの開催となりましたが、それでも一般として毎年参加を楽しみにされている教職員の方もいて、口コミで伝わり、親子連れの参加を含めて20名以上の参加者となりました。

にぎやかな中、今年は「いのしし」をテーマにユニークかつダイナミックな作品ができました。陶芸は制作のあとには、素焼き、釉薬かけ、本焼きと続き、制作時間以上にやる必要があります。

これから秋に釉薬をかけて、それから本焼きをします。会員のみならず、おさまに作品をお渡しできるのは年末から年明けになりそうです。

お楽しみに。



## 【更埴特別支援教育研究会】

第1回の研修会は、阿南町立大下条小学校長の堀内澄恵先生を講師にお迎えし、6月9日に「初めての文字学習について～読み書きが苦手なものには訳がある～」をテーマに開催しました。「小学校1学年におけるひらがなの読み書きの困難さは、全ての教科の学習に影響する」ということで4つのステップごと具体的な支援を教えてくださいました。



参加者からは、「読み書きが苦手な子どもに出会うことが年々増えているように思っています。学校の中でも話題にしていければと思います。」「今まで何度も1年生を担当してきました。今日のお話をもっと早く聞いていたらあの子もあの子もあんなに戸惑うことはなかったのかも、と思うばかりでした。」といった感想を寄せていただきました。

本年度、第2回研修会は稲荷山養護学校養護教諭竹内奏子先生を講師にお迎えし「特別支援教育～保健室からのアプローチ」をテーマに開催する予定です。

## 【更埴地歴民俗研究会】

更埴地歴民俗研究会では、8月2日(木)に東信地方の名所を巡る夏季巡検を実施しました。午前には市村記念館(旧近衛文麿邸：町文化財)、旧三笠ホテル(重要文化財)を見学した後、午後には旧軽井沢の街並と街道や万平ホテルを歩いて巡りました。全体を通じて、五加小学校長 久保田英雄先生が丁寧に説明して下さいました。

一同、大興奮だったのが、登録有形文化財に登録される見込みとなった万平ホテルでした。特に印象的なのはメインダイニングルームでした。美しいステンドグラスがロビーの明かりで光輝き、折上格(おりあげごう)天井の重厚感が素晴らしかったです。

8月の暑い日でしたが、幾分涼しい避暑地でじっくりと巡検することができました。また、軽井沢の歴史・文化財の保存と公開の両立を図るために努力されている方々の熱意を感じ、参加者全員が元気をもらった充実した日となりました。



## 【フィールドワークで学ぶ人権同和教育研究会】

私たち「フィールドワークで学ぶ人権同和教育研究会」は今年で8年目となる教育研究会です。今年度は会員9名でこの教育研究会をスタートさせました。

私たち教育研究会は「最近、人権教育の中に同和問題に関わる内容が含まれ、同和問題を学ぶ機会が少なくなってきた」と感じています。「人権」を語る上で、同和問題に関わる内容は不可欠で有り、私たちが自ら進んで学習する必要があると考えています。活動内容としては、人権教育や同和教育問題に関わる方々から直接話を聞いたり、地域の中で学びを深めたりなど「自分の肌で感じながら」深く理解していくことを目的としています。

今年度は12月に、地域の方と膝を交えて語り合う研修会・懇親会を予定しています。

